

# 林業経営

林業経営の変遷とこれから

日時：平成21年11月21日（土） 10:00～12:00

講師：金田 康嗣（元鳳来町森林組合長）

## 概況

---



### 1. 新城市池場地区の林業

#### (1) 江戸時代の池場村

江戸時代の池場村は、幕府の直かつ林地が大きかった。

村の人口は、延宝から明治にかけて140人前後から200人前後であった。現在87人となっている。

幕府の御林の立木は、桧、槻(けやき)、松、栂(つが)、縦(もみ)、檜、椎木(しいのき)、姫子(ひめこまつ)、雑木(ぞうき)の記録があるが、杉がないのが不思議である。植林技術は240年前になるが、苗木を畑で育てて、山へ植林していたようである。

#### (2) 明治・大正期の林業

明治15年大日本山林会を政府がつくった。以降、会報である「山林」が毎月発行されている。

村では、植木(しょくぼく)するための池組植木銘約規約書を作り、植林する計画を立てた。その後、日露戦争戦時記念林、学校林の設定により植林されている。明治43年には、大日本山林会の全国総会が愛知県で開催され、これを契機に「愛知県山林会」が設立された。

大正7年には、池場共有林管理組合が設立された。

#### (4) 昭和期の林業

昭和9年は山林不況の苦しい年であった。村では、経済更生事業計画がつくられ、昭和12年には池場土工組合が設立された。昭和15年には、紀元2600年記念林設定、昭和16年には、愛知県森林組合連合会設立へとつながっていく。昭和37年の伊勢湾台風で県下の60万立方mの森林が被害を受けた。

## 2.私の林業参入

昭和 39 年に長峰産業株式会社を設立し、本格的に林業に取り組んだ。昭和 42 年に相続が発生し、15 年間の延納で乗り切った。造林資金を借りて、拡大造林に取り組み、優良材生産林業を目指した。

その後、雨降り対策から、木材の加工も手がけ、間伐小径木の煮沸丸太、また林内で製品にしてからヘリコプターで出材する林内製材の取組、小径木の輪切材づくりなどを行った。

平成元年に鳳来町森林組合長に就任し、林業の機械化を進めるため、林道などの道端を中心に高性能林業機械を活用する「道端林業」に取り組んだ。21 世紀は収穫の時代である。

## 3.林業のこれから

森林資源構成表を見ても分かるが、林齢の高い森林が多くなっている。地域では、三河材まつりが毎年行なわれているが、木材価格は低迷している。本年の三河材まつりでは、スギ1立方m当たり 116 千円の高値であり、活気づいた様子であった。

金になる木を伐り、細いものは太くしてから売る。先祖が植えた 240 年生などの古い木は残していくことも大切である。